



OSAKA UNIVERSITY
OF ECONOMICS AND LAW
大阪経済法科大学

LIBERA

volume

74

2009



特集

能動的に学ぶ— アクティブ・ラーニングの勧め

第2回日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナーグループディスカッション
(2008年8月21日～29日開催、於 大阪経済法科大学特別会議室)

第2回日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナーで
グループディスカッションを行う学生たち



【特集】 能動的に学ぶ アクティブ・ラーニングの勧め

大学では、これまで教員が教えることを学生がどれだけ理解できるか、専門分野についての知識・理解が重視されてきました。しかし、現代社会で活躍するには、専門知識だけでは十分ではありません。そのために、「何ができるようになったのか」という学習成果が問われるようになっていきます。

大阪経済法科大学では、「実践の中から真理を探索する実学の精神を持った人材」（寄附行為前文）、「豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成」（学則第1条）することを目指しています。法学部は、「正義と公平を旨とするリベラルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成」（学則第2条第3項）を、経済学部は、「グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成」（学則第2

条第2項）を学部の教育目標としています。この目指す人材像は、コミュニケーション力や情報活用能力等の汎用的な技能を備え、正義と公平を尊重する志向性、創造的な思考力を身につけることを意味しており、それらを学習成果として含んでいると言えるでしょう。

そのため、本学では、従来の教員からの一方的な講義ではない、双方向性を持った学生を主体とした能動的な学びを奨励しています。それが、アクティブ・ラーニングです。アクティブ・ラーニングとは、「学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法」ですが、本学では、多様な形式でこれに取り組んでいます。

今回の特集では、1年次の初年次教育プログラムから経済学部・法学部専門科目まで広がるアクティブ・ラーニングの実際の取組を紹介し、あわせて永平幸雄教務部長のインタビューを通じて能動的に学ぶ意義を紹介します。

大阪経済法科大学学報 [リベラ]

LIBERA
volume 74/2009



2009年7月31日発行
【編集】
大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番
TEL072-941-8211
FAX072-941-4426

<http://www.keiho-u.ac.jp/>



CONTENTS

3 特集

能動的に学ぶ— アクティブ・ラーニングの勧め

「大学演習A・B」、体験・参加型授業
教務部長インタビュー 他



10 [経法タイムス]

村下博教授を偲ぶ会
新任教員紹介、第39回入学式
公開講座、公開講演会 他

13 [教育後援会だより]

2009年度教育後援会総会・父母懇談会



14

2009年度大学予算・事業計画報告

17 [スチューデントパワー]

第25回ユニバーシアード競技大会出場
軟式野球部一部リーグ昇格
卒業生の活躍 他



18 [国際交流通信]

アメリカ・カンザス州立エンボリア大学「日本研修プログラム」
海外フィールドスタディ(韓国)
海外インターンシップへ出発 他



21 [キャリアアップステーション]

平成21年度学生支援推進プログラムに採択
2009年就職戦線、就職内定先 他

24 [KEIHO INFORMATION]

「新学生ホール棟(仮称)」建設

八尾市内のメーカーを訪問



場に出向き、企業の経営、農業の現状、商店街をめぐる問題、福祉を通して生活の実態、環境問題の重要性、まちづくりの課題などを、事前学習→現

八尾市周辺の経済問題や社会問題を体感しながら学ぶ講義です。経済学部総合経済コースの中の「地域振興モデル」の科目として位置づけられています。

地域の現場を体感しながら学ぶ 「地域フィールドスタディ」

体験・参加型授業

「フィールドスタディ、NPO活動への参加、プロジェクト学習を通じて学ぶ」

大学演習クラスでは、2008年度に引き続き、本年も裁判所見学が実施されました。6月11日、16日の両日、経済学部、法学部のクラスが大阪地方裁判所を訪問し、裁判所の職員から

〈裁判所見学〉

裁判と裁判所についての基本的な説明を受けた上で、グループに分かれて、刑事裁判の公判を傍聴しました。一回の見学で、より詳しく裁判を理解できるように、いろいろな段階の公判を順に傍聴する形で実施されました。



大阪地方裁判所の法廷を見学



3クラスのゼミ合同合宿（4月22日・23日）

多様な体験を通じて、 学びの姿勢と 学習スキルを身につける。

「大学演習A・B」（経済学部・法学部、1年次）
ゼミ合同合宿から学外授業まで――

大学の1年生にとって、大学生活の中心となるのが、「大学演習」です。大学における学び方の姿勢や学習技法を習得することと同時に大学における人間関係づくりを目標としている。

まず、大学演習では、レポートの書き方や発表の仕方、図書館の効果的な利用方法など、大学で専門的な学習を進めるために必要な学習技法を身につけます。

大学演習は、1年間継続して、教員がチューター（担任）、職員がサブチューター（副担任）、先輩学生がメンターとして、クラス運営や個々の学生のサポートに当たっています。20名以下の少人数のクラスでは、学生は単に出席し、教員の話を聞くだけでなく、教員の語りかけに応え、授業運営に積極的に参加していくことが求められます。そのような学生の積極的な態度を授業への貢献として評価し、教員と学生が互いに高め合っていく関係を目指しています。

〈ゼミ合同合宿〉

4月から6月にかけて、3回にわた

って、大学演習の6クラスが、阪南キャンパスセミナーハウスでゼミ合同合宿（あるいは単独合宿）を行いました。1泊2日の日程で、それぞれ違ったプログラムを通じて、参加した1年生は、チューターの教員、サブチューターの職員、メンターの先輩学生と信頼関係を深め、クラス内だけでなく、クラスを越えたゼミ生同士の交流が実現しました。



グループで参加したパフォーマンスナイト

〈フィールドワーク〉

深見環准教授の大学演習では、6月に「繁華街（難波・心斎橋）における営業活動」をテーマとしたフィールドワークを行い、小売店のリアルな販売促進活動に触れ、素直な感想を糸口に経営学への学習に結びつけようとする取組です。昨年には、田中嗣久准教授の大学演習が、同じ心斎橋筋周辺のフィールド見学を通じて、看板のはみ出しなど日常見られる違法状態について調査し、報告する学外授業を行いました。

地見学→簡潔な報告書作成のサイクルで学習し、これを通して経済社会に対する理解を深めています。授業のまとめとして、各自でレポートを作成し、パワーポイントのデータを準備して、プレゼンテーションを行います。

現在は、経済学部の専門科目として開講されていますが、法学部でも同様の海外フィールドスタディ科目が開講される予定（2010年度）で、2008年3月にはパイロット事業として、「海外姉妹校訪問プログラム」が韓国で行われ、法学部教員と学生が憲法裁判所、大法院（最高裁判所）などを訪問しました。

（詳しくは、19頁を参照）

異文化に触れる海外体験学習 「海外フィールドスタディ」

中国・上海、韓国・ソウルで経済・歴史・文化施設の視察などを実施。社会の実態を生き生きと捉え、現実の諸問題に対する幅広い視野を学びます。

体験を通してNPO活動を学ぶ 「法実務」

法学部生活環境コースに位置づけられる体験学習科目。NPOの活動を体験することにより、生活環境コースの環境・消費・福祉などの問題の解決を図るという目的を立体的・具体的に捉えることを目標としています。体

験を通して、具体的にNPO活動の一端を学び、将来の進路選択にも役立つように設計してあります。学際科目「NPO論」の履修を前提として、NPO活動に参加する中から、何か一つのテーマについて法の対象とする現実をつかみ、現代的課題を深めていきます。

2008年は、8月に宝塚NPOセンターの活動に参加し、9月には大阪・釜ヶ崎フィールドツアーを実施。2009年は、地域の環境NPO・環境アニメイティッド八尾と連携して、高安山里山整備事業に受講生が積極的に加わりました。学生はNPO担当者からの活動報告と各自のレポートによって評価されます。

IT特別プログラムのコア科目 「IT特別演習Ⅰ／ⅡA・B」

経済学部ITキャリアコースの専門科目で学んだ専門知識に基づいて、実践的な力を身につけるために2008年にスタートしたIT特別プログラム。その中心となるのが「IT特別演習」です。IT専門研究室「ITラボ」を活用し、高度なIT活用能力を養い、Webサイトの構築・運営やeビジネスの研究などを授業に限らず、学生たちが設定したプロジェクトを中心に学習を進めています。



部品を調達してパソコンを自作

2008年のITラボ開設に当たっては、担当の呉志賢准教授の指導の下、「IT特別演習Ⅰ」の2年生がネットワークの構築、PCの自作も含めて、教育研究環境を自ら作り上げることから始めました。更に演習で学んだWeb制作・サイト運営の知識を使って、環境アニメイティッド八尾との連携事業に参加し、同NPOのWebサイトの制作と運営を担い、学外の学生ビジネスコンペティションにも参加しました。

2009年には、IT特別プログラム1期生が3年次の「IT特別演習Ⅱ」へと進み、新たに履修した2年生のプログラム2期生を指導しながら、新しいITビジネスやWebマーケティングモデルの企画プロジェクトも進行しています。

地域に貢献する中から 実践的に学ぶ 市民無料法律相談

法学部と法学会の共催で、6月20日、八尾市民を対象にした第4回市民無料法律相談をプリズムホールで開催しました。

本学教員と前田春樹弁護士（大阪弁護士会所属）が、民事全般にわたる法律問題の相談に応じました。35組の市民が、自己破産や離婚、不動産などに関連した相談に訪れました。

今回は、昨年も参加した学生が法律相談部（顧問・岩村等教授）を結成し、事業運営に積極的に協力し、記録係として同席しました。参加した学生は、実際に、弁護士が法律問題を具体的に説明し、アドバイスする業務に接することで、法律をより深く理解することができました。

【教務部長インタビュー】

実践の中から真理を探究する。 ——能動的な学びで、「学士力」を身につけよう。——

教務部長 永平幸雄教授（教養部）

学長補佐・大学教育開発支援センター所長
京都大学大学院理学研究科物理学第二専攻博士課程修了
理学博士（京都大学）

注目される アクティブ・ラーニング

現在、日本では、希望する人には広く高等教育の機会が与えられるユニバーサルアクセスの時代を迎えていると言われています。同時に大学卒業によって与えられる学士の学位が国際的に通用するように、大学教育の質の保証が求められる時代でもあります。

そのため、これまで重要視されてきた「何を教えるか」、「何を学ぶのか」という学習内容に対して、新たに「何がでさるようになったのか」という学習成果（ラーニング・アウトカム）が注目されるようになっていきます。その具体的な指標として、2008年に出された中央教育審議会の答申では、「学士力」が提唱されています。

「学士力」の内容としては、「知識・理解」に加えて、コミュニケーション・スキルや基本的な情報活用能力等を含む「汎用的技能」、自己管理能力や協調性等を含む「態度・志向性」、それに「統合的な学習経験と創造的思考力」が

挙げられています。（8頁表を参照）

「何ができるようになったのか」を問うということは、学生を主体とした学習への転換が必要となってきたことを意味しています。そこで、注目されているのがアクティブ・ラーニングです。

アクティブ・ラーニングとは、「学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」です。伝統的な教員による一方的な講義形式の教育と比較して、学習者が能動的に学ぶことによって、学んだ内容を深く理解しやすい、あるいは異なる文脈でもその学んだ内容を使いこなしやすいといわれています。

これまでであれば、発表、ディスカッションを重視する少人数の演習（ゼミナール）がその役割を担っています。しかし、今では、演習以外でも、アクティブ・ラーニングを取り込んだ授業が求められています。

アクティブ・ラーニングの例としては、学生参加型授業、協調・協同学習、課題解決・探究学習に加えて、社会奉仕体験活動、フィールドワーク、インターンシップ、海外体験学習や短期留学等の体験活動を利用することがあげられます。





求められる 新たな評価方法

一方で、「どのような力がついたのか」を測る評価方法が課題となっています。「知識・理解」であればペーパーテストで判定でき、「汎用的技能」についても、スキルを判定することは可能です。

本学の初年次教育プログラムの中心となる「大学演習」では、大学での学びの姿勢や学習技法を習得することと、大学における人間関係づくりを目標とします。そのために、能動的な学習への参加や体験を重視するアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。

まず、4月から6月にかけて、大学演習の合計6クラスが阪南キャンパスセミナーハウスで、合同あるいは単独でゼミ合宿を行っていました。まだまだ大学やクラスに慣れていない新入生が、セミナーハウスで寝食を共にし、語り合い、グループを作って作業を行うことを通じて、人間関係を深めることができました。参加した学生の80%以上が人間関係を学んだり、友人ができたという理由で有意義だと答えています。

このような大学演習での取組は、「学

初年次教育でも アクティブ・ラーニングを重視

士力」を身につけるために、4年間を通して学士課程教育として、初年次に到達すべき目標に向けて、大学全体として行っていることが重要だと言えます。

各クラスで別々に行う取組でなく、組織的に行われていることに意味があるのです。



大学演習でのグループ発表

●「学士力」～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～

身につける能力	内容
1.知識・理解	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1) 多文化・異文化に関する知識の理解 (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
2.汎用的技能	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1) コミュニケーション・スキル (2) 数量的スキル (3) 情報リテラシー (4) 論理的思考力 (5) 問題解決力
3.態度・志向性	(1) 自己管理能力 (2) チームワーク、リーダーシップ (3) 倫理観 (4) 市民としての社会的責任
4.統合的な学習経験と創造的思考力	これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日付）から作成

かし、「態度・志向性」はペーパーテストでは測ることができません。一つの方法としては、アンケートによって探るということは考えられますが、それだけでは不十分です。

そのような評価を通じて、学生を能動的な学習者にすると考えられているのが、「ラーニング・ポートフォリオ」です。それは、学習の過程・自分の活動を記録し、提出した課題・レポートを蓄積し、セメスター毎や学年毎に振り返りを行い、当初自分で設定した目標と比較しながら、自分自身の学習成果を評価するシステムだと言えます。そうすることで、テストでは測れない「態度・志向性」であったり、創造性について、蓄積した成果物から見て取ることができるようになります。

法学部で養成しようとしている「リ―ガル・マインド」も、法的な考え方、正義を求める倫理観や公平性の感覚を含んだ目標であり、知識だけでは身につかず、能動的なディスカッションを積み重ねることによって獲得されるものだと思います。

能動的に学ぶ アクティブ・ラーナー (能動的な学習者)になろう

積極的、能動的に学ぶ学習意欲（モ

チベーション）は、体験によって生み出されます。できるだけ多くの体験をすることで、モチベーションを生み出すことができます。これまで、幅広い学問に触れることで、物事に対する多面的なアプローチをすることができると考えられていましたが、知識として幅広い学問に触れることが、そのまま精神の柔軟性や問題解決能力につながる訳ではありませんでした。

明確な到達目標を立てて、それに向かつて努力することが必要になります。たとえば、倫理観では、経済学の諸科目を通じて倫理の大切さを学ぶと同時に課外活動や演習の人間関係を通して、「態度・志向性」として自己の良心や社会のルールに従って行動できるようになることだと言えます。

だから、学生の皆さんに伝えたいことは、講義を一方的に聴いて、覚えるだけでは力にはつかないということです。社会のフィールドに出ていたり、他人と討論を行ったりして、積極的に関わっていくことが重要です。「知識・理解」の力についても、体験があつて、理論と実践を結びつけることで、初めて生きてくると言えます。本学には、多様な科目で能動的な学習の機会が用意されています。是非、皆さんにはその機会を積極的に活用してもらいたいと思います。

大阪経済法科大学副学長 村下博教授を偲ぶ



法学部主催の公開シンポジウムで講演される村下教授(2004年11月)

本年4月19日に急逝された村下 博教授(本学副学長)を偲ぶ会が、6月10日(水)、6号館6500号教室においてしめやかに執り行われました。

偲ぶ会では、参席者による黙祷が行われた後、本学吹奏楽部から学歌『われらが白き学舎に』、続いて先生が生前愛唱された曲『河内おとこ節』が、献奏として捧げられました。その後、藤本和貴夫学長、

法学部3年生の中谷祥宏さんから、弔辞が読まれ、参席者による献花が行われました。当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、先生を慕う多くの学生・教職員・関係者が参席し、村下教授の業績と人柄が偲ばれました。

夕刻まで開放された会場には、偲ぶ会終了後も多くの関係者が訪れ、献花を行う姿が見られました。

村下 博教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



弔辞を読む藤本和貴夫学長

【訃報】



大阪経済法科大学名誉教授
村川 行弘先生
(2009年4月6日逝去。享年84歳)

大阪大学大学院を修了後、1979年本学教養部教授として着任。図書館長、総合科学研究所長を歴任。



大阪経済法科大学名誉教授
福本 憲男先生
(2009年6月3日逝去。享年78歳)

関西大学大学院法学研究科、近畿大学大学院商学研究科を修了後、1971年本学法学部講師として着任。学長補佐、法学部長、学生部長、図書館長、法学研究所長を歴任。

■村下 博教授略歴

【学歴】	1980年3月	龍谷大学大学院法学研究科博士課程修了
【学位】	2000年10月	法学博士学位取得(龍谷大学)
【職歴】	1980年4月	大阪経済法科大学法学部講師
	1984年4月	大阪経済法科大学法学部助教授
	1993年4月	大阪経済法科大学法学部教授
	2005年4月	大阪経済法科大学法学部長(2007年3月迄)
	2007年4月	大阪経済法科大学学長補佐(2009年3月迄)
	2009年4月	大阪経済法科大学副学長
【表彰】	1999年8月	第16回野村賞受賞

新任教員紹介



①白井 諭(しらい さとし)
②刑事訴訟法、刑事法の基礎
③法学部講師
④東北大学大学院
法学研究科



①呉 紅敏(こ こうびん)
②社会保障法、社会福祉法
③教養部准教授
④大阪府立大学大学院
経済学研究科
博士(経済学)



①ジェイソン・ジョンソン
②英語、視聴覚英語
③教養部講師
④大阪大学大学院
言語文化研究科
博士(言語文化学)

※①氏名 ②主な担当科目 ③職名 ④最終学歴・学位

今年度も

八尾市民対象 公開講座を開講

本学学生及び八尾市民(東大阪市民も一部含む)を対象に、2000年から開講されている公開講座「地域生活と法」が本年4月から開講され、「消費生活・消費者問題と法」をテーマに10名の弁護士、消費者センター相談員、行政マンから、それぞれの視点に立った内容で講義が行われました。

21世紀社会研究所主催 公開講演会を開催

4月28日(火)、21世紀社会研究所主催の公開講演会が開催され、梅田章二弁護士(本学21世紀社会研究所客員教授)による「『NGO活動』—日本の市民運動の現状について—」と題した講演会が行われました。

今回の講演では、「NGOとは何か」というテーマから入り、NGOという名称は知っているが内容までは詳しく知らない、



という人でも分かりやすい内容で講演が進められました。そして、NGOが世界規模でネットワーク化されていくまでの歴史やそれぞれの活動内容、日本が抱える課題など、具体的な内容にも及び、さらには憲法9条の重要性を訴えてきた自身の活動が紹介されました。

今年1月、ブラジル・ベレンで行われた世界社会フォーラムに参加した際の様子がDVDで紹介され、10万人もの人が集まりパレードや議論する様子など、NGO活動に取り組む人々の姿が映し出されました。



(次頁へ続く)

第39回入学式を挙 行期待と希望に胸を 膨らませた新入生を 迎える

4月3日(金)、2009年度第39回入学式が、本学総合体育館「尚淑館」で挙行されました。

式では、経済学部・法学部の新入生を代表して樹下果美さん、孫田大樹さんからそれぞれ宣誓文の朗読が行われた後、藤本和貴夫学長による式辞、田中誠太八尾市長、松川正毅大阪大学大学院高等司法研究科長から、新たな期待と希望に胸を膨らませる新入生に

向け、暖かく、力強いメッセージが送られました。在学生代表挨拶では、法学部4年生の徳丸祐治さんから「4年間の大学生生活で、多くの人とコミュニケーションを積極的に取り、目的意識をしっかりと持って充実した学生生活を送ってほしい」と歓迎のことばが述べられました。

式終了後は、在学生による新入生歓迎イベントやクラブ勧誘も行われ、キャンパスは満開間近の桜とともに華やかな雰囲気になりました。

新入生父母教育懇談会を開催

4月3日(金)、入学式終了後、場所を体育館から5号館に移し、多くの父母・保護者の出席のもと、新入生父母教育懇談会が開催されました。

この新入生父母教育懇談会は、新入生の父母・保護者の方



多くの父母・保護者が出席

を対象に、大学の教育システムや教育後援会の目的、基本事業の概要、また、就職支援、資格取得支援体制など、大学が取り組む様々な学生支援の内容を知っていただくという毎年実施されているものです。

第35回卒業式を挙行 卒業生の門出を祝う

3月18日(水)、本学総合体育館「尚淑館」で2008年度第35回卒業式が挙行され、

多くの父母、保護者が見守る中、卒業生が新たな希望を胸に本学を旅立ちました。

式典ではまず、出席者全員で学歌「われらが白き学舎に」を斉唱した後、経済学部卒業生を代表して平良登さん、法学部卒業生を代表して竹内稔さんにそれぞれ学位記が授与されました。続いて、藤本和貴夫学長から式辞、伴井敬司校友会会長から祝辞が述べられ卒業生の門出を祝いました。今年度の各賞授与では、会計専門職大学院合格者1名に経済学部長特別賞、法科大



八尾市長賞を授与される卒業生(松政敦子さん・法学部)

学院合格者9名に法学部長特別賞が、また環境保全活動や地域貢献活動で活躍した2名の学生に八尾市長賞が授与されました。

献血活動を実施

年に2回(4月・11月)実施されている献血活動が、去る4月14日(火)・16日(水)の2日間、大阪府赤十字血液センター主催の下、本学キャンパス図書館前で実施されました。2日間で計100名を超す学生が協力しました。



多くの学生が献血に協力

教育後援会だより

2009年度 教育後援会総会・父母懇談会を開催



で承認されました。

最後は、2009年度教育後援会会長に選出された山中富美子新会長から決意と抱負が述べられ、総会は終了しました。

総会終了後は、株式会社ベネッセコーポレーション大学支援事業開発部西日本営業課ディレクターの正井三帆子氏を講師に迎え、「大学生の就職実態とキャリア開発の重要性」と題した講演会が開催されました。

6月14日(日)、2009年度教育後援会総会が、本学5100号教室で開催されました。総会では、山田知子教育後援会会長、藤本和貴夫学長、伴井敬司校友会会長から、それぞれ挨拶が行われた後、2009年度役員(案)、2008年度収支決算書(案)、2009年度収支予算書(案)が担当者から提案され、審議の上、満場一致

また、ルースベルト大学記念館大食堂で行われたキャンパスランチ体験では、本学吹奏楽部による演奏が行われました。午後から開催された父母懇談会では、個別懇談やテーマ別相談会が実施され、参加した父母・保護者からは、修学・就職・学生生活・資格取得といった様々な相談が寄せられました。

2009年度 大阪経済法科大学教育後援会 収支予算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

◆収入の部 (単位:円)				
項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1.教育後援会費	11,836,000	13,564,000	△ 1,728,000	
2.受取利息	6,805	6,731	△ 74	
小 計	11,842,805	13,570,731	△ 1,727,926	
前年度繰越金	8,355,911	8,389,450	△ 33,539	
収入の部合計	20,198,716	21,960,181	△ 1,761,465	

◆支出の部				
項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1.学生福祉費				
(1)学習活動支援	550,000	700,000	△ 150,000	就職模擬試験受験料補助等
(2)課外活動支援	500,000	1,400,000	△ 900,000	スポーツ安全保険加入補助等
(3)学生行事支援	800,000	1,300,000	△ 500,000	経法祭等
(4)奨学金事業支援	8,820,000	8,320,000	500,000	
2.記念品費	1,100,000	1,400,000	△ 300,000	入学記念品及び卒業記念品
3.総会開催費				
(1)通信費	280,000	350,000	△ 70,000	総会案内状の郵送料等
(2)印刷製本費	300,000	300,000	0	総会案内状・封筒制作費
(3)その他諸費	300,000	500,000	△ 200,000	
4.父母教育懇談会費	550,000	550,000	0	新入生父母教育懇談会及び父母懇談会の経費補助
役員会開催費用(年2回)				
5.役員会開催費	300,000	450,000	△ 150,000	
6.予備費	100,000	100,000	0	
小 計	13,600,000	15,370,000	△ 1,770,000	
次年度繰越金	6,598,716	6,590,181	8,535	
支出の部合計	20,198,716	21,960,181	△ 1,761,465	

2008年度 大阪経済法科大学教育後援会 収支決算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

◆収入の部 (単位:円)				
項 目	予算額	決算額	差 異	備 考
1.教育後援会費	13,564,000	13,628,000	△ 64,000	
2.受取利息	6,731	6,805	△ 74	
小 計	13,570,731	13,634,805	△ 64,074	
前年度繰越金	8,389,450	8,389,450	0	
収入の部合計	21,960,181	22,024,255	△ 64,074	

◆支出の部				
項 目	予算額	決算額	差 異	備 考
1.学生福祉費				
(1)学習活動支援	700,000	325,280	374,720	資格取得支援教材購入等
(2)課外活動支援	1,400,000	1,250,724	149,276	各クラブの備品購入等
(3)学生行事支援	1,300,000	1,253,764	46,236	経法祭・卒業祝賀会等
(4)奨学金事業支援	8,320,000	7,920,000	400,000	
2.記念品費	1,400,000	1,135,160	264,840	入学記念品及び卒業記念品
3.総会開催費				
(1)通信費	350,000	295,160	54,840	総会案内状の郵送料等
(2)印刷製本費	300,000	335,370	△ 35,370	総会案内状・封筒制作費
(3)その他諸費	500,000	307,390	192,610	
4.父母教育懇談会費	550,000	534,302	15,698	新入生父母教育懇談会及び父母懇談会の経費補助
役員会開催費用(年2回)				
5.役員会開催費	450,000	311,194	138,806	
6.予備費	100,000	0	100,000	
小 計	15,370,000	13,668,344	1,701,656	
次年度繰越金	3,590,181	8,355,911	△ 1,765,730	
支出の部合計	21,960,181	22,024,255	△ 64,074	

2009年度

大学予算・事業計画報告

2009年度

大学予算・事業計画を理事会で決定

2009年度大学予算・事業計画が、3月23日の理事会で決定され、4月1日より執行が開始されています。

本学では、大学の主な財源である学生生徒等納付金収入すべてを教育研究の充実と大学の発展のため、活用する大学予算制度を導入しています。「2009年度大学予算書」の示すとおり、予算規模は、約67億円であり、人件費支出、教育研究経費支出、

管理経費支出等に充当されています。

経済学部・法学部の特色ある学士課程教育の充実、各種資格試験講座の発展、学生生活支援（奨学金等）、課外活動支援、学生のキャリア開発、国際教育の推進、情報化の充実、研究の活性化と地域連携の強化等の重要事業に予算の重点的配分を行うとともに、諸経費の削減にも取り組んでいます。

2009年度

大学事業計画の概要

経済学部・法学部

特色ある

学士課程教育を充実

建学の理念及び学則に基づき、学生の多様なニーズと社会からの要請に応える充実した大学教育を行います。学部・コース制に加えて副専攻制度、初年次教育プログラム、各種体験学習、特修講座（Sコース）・資格講座を組み合わせ、特色ある学士課程教育を実施します。

法学部では、「法曹コース」、「公務員コース」等のコース制のさらなる充実・強化に取り組みます。そして、特別講義や講演会、参加型・体験型教育プログラム、学生研究発表大会や法学会との協力による学生顕彰論文事業等、多様な教育プログラムを実施します。

経済学部では、「会計ファイ

ナンスコース」、「ITキャリアコース」等の特色あるコース制の充実を図ります。卒業論文の制度化や、経済学会と協力した経済学部学生顕彰論文事業を活発に展開します。

また、経法相互乗り入れの充実を図るとともに、国際教養副専攻、環境副専攻、情報副専攻の円滑な実施・運営を行います。

大学演習ポートフォリオ・フアイルを制作し、学生自身が学習成果を確認できるようにする等、一人ひとりの4年間にわたる様々な成長を促すための初年次教育プログラムを充実させます。

さらに、大学教育開発支援センターと法学部、経済学部、教養部が連携して授業改革を推進します。教育の可視化を

進め、教育改革・授業改善における計画・実践・評価・改善のサイクルを稼働させ、教育力のさらなる向上を目指します。

正課授業との融合

特修講座（Sコース）・

資格講座を発展

会計職講座と「簿記実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を、また公務員講座と「公務員論Ⅰ・Ⅱ」を一体化した運営を行う等、正課授業との融合により、特修講座を発展させます。2年次以降における特定専門科目「講義・演習」の履修を義務づけた、効率的・効果的なプログラムを実施します。そして、難関試験や大学院等の合格に向けた学習指導・受験指導を強化し、合格実績の着実な向上を目指します。

専門知識と国際性を涵養
特色ある国際教育を
推進

さらに、学生生活支援のためのシステムを改善し、大学業務の情報化を推進し、学生サービスを向上させます。

ロンドン大学、北京大学等、

海外16カ国・地域38大学・研究機関との国際交流の成果を踏まえ、「国際教育プログラム」を推進します。カンザス州立エンプORIA大学との交換留学制度を充実させるとともに、米国内での初のインターンシップを行います。また、八尾市国際交流センターとの地域連携事業、産学連携事業を推進します。

情報教育の

充実・高度化

経済学部ITキャリアコース、経済学部IT特別プログラムの教育内容を豊富化します。また、新教材の作成等、情報教育への支援体制を整備します。

「就職力」の育成を

重点目標に、

希望進路実現に

向けた全学的支援を

強化

競合にうち勝つ「就職力」の育成を重点目標に、就職指導部と各学部・教養部が連携し、入学時から卒業までのきめ細かなキャリア教育を実施するとともに、学生の希望進路の実現に向けた全学的な支援体制を強化します。学生の希望進路と社会の人材需要を調査し、的確に把握することによって、より実効性のあるキャリア教育を実施します。

また、経済・雇用状況の急変に伴い、緊急就職支援事業を実施する等、各種特別事業を行ない、学生の就職を力強くサポートします。

研究の活性化、

地域連携・社会貢献を

推進

市民無料法律相談、八尾市・八尾商工会議所との提携講座、大学施設の市民開放等、多様な形態で地域連携・社会貢献を行います。また、八尾市立図書館との連携を強化し、一般の利用者を増やすことにより、地域に根ざした専門図書館としての役割を果たします。

「新学生ホール棟（仮称）」

建設をはじめ、

施設・設備の整備を推進

教育力のさらなる向上のために、教育環境の整備を行います。レストラン、その他多様な機能を備えた「新学生ホール棟」の建設計画及び大規模リニューアル工事実施に向けた計画を進め、安全・快適で、学生の諸活動がさらに充実するキャンパス空間の創造を進めます。

西都大学軟式野球連盟春季2部リーグ戦（9節）が、4月から6月にかけて開催され、本学軟式野球部が7勝2敗の戦績で見事優勝し、1年での1部復帰を達成しました。



1部昇格を決め、喜ぶ軟式野球部ナインたち

軟式野球部 1部リーグに振り返り咲き

7月にセルビア共和国の首都ベオグラードで開催された「第25回ユニバーシアード競技大会」に、本学経済学部1年生の小林穂奈美さんが、日本代表として出場しました。



田中誠太八尾市長（左から2人目）にユニバーシアード競技大会への参加を報告する小林穂奈美さん（右から2人目）

第25回ユニバーシアード 競技大会に日本代表として出場！



法科大学院修了者との懇親会にて

本学卒業生が、今春各法科大学院を修了し、法務博士（専門職）の学位を取得しました。2005年度に本学から初の法科大学院進学者が出た後、毎年多くの学生たちが法曹の道を目指し、法科大学院に進学を果た

2009年法科大学院修了者		
山崎 亮介氏	関西学院大学法科大学院	
加々良昇和氏	熊本大学法科大学院	
仲里 義克氏	京都産業大学法科大学院	
板東 正也氏	龍谷大学法科大学院	
中野 栄吉氏	龍谷大学法科大学院	
田邊 龍真氏	愛知学院大学法科大学院	

卒業生6名 法務博士学位を取得

主将の綿田佑貴さん（経済学部・3年生）は、「秋から始まる一部リーグ戦でも、好成績を残し、西日本大会への出場権を獲得できるよう、日々の練習に励みたい。」と抱負が語られました。

大学教員として活躍する卒業生

本学卒業生である呉紅敏氏が、教養部准教授として採用され、今年度から社会保障法、社会福祉法等の科目を担当することになりました。

他にも、2008年11月から戸室健作氏が山形大学人文学部法経政策学科講師として、2007年4月から切詰和雄氏が神戸学院大学法学部法律学科講師としてそれぞれ教育・研究分野で活躍されています。

呉 紅敏氏

1998年 3月 大阪経済法科大学法学部法律学科卒業
2004年 3月 大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程修了（博士号取得）
2009年 4月 大阪経済法科大学教養部准教授採用（社会保障法、社会福祉法）

戸室 健作氏

2001年 3月 大阪経済法科大学経済学部経済学科卒業
2008年 3月 明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了（博士号取得）
2008年11月 山形大学人文学部法経政策学科講師採用（社会政策論）

切詰 和雄氏

2001年 3月 大阪経済法科大学法学部法律学科卒業
2007年 3月 明治大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
2007年 4月 神戸学院大学法学部法律学科講師採用（物件法、民法総則）

2009年度 大学予算書

（2009年4月1日から2010年3月31日まで）

大阪経済法科大学

単位:千円

収入の部		本年度予算額	入試の検定料収入、各種証明書の発行手数料収入等です。
科 目			
●学生生徒等納付金収入		3,162,133	セミナーハウスの利用料や留学生宿舍の寮費収入等です。
授業料収入		3,033,426	
入学金収入		113,000	貸与奨学金の契約に基づく返還収入です。
実験実習料収入		11,537	
その他納付金収入		4,170	教員及び職員の「本俸、期末手当、その他手当並びに所定福利費等」です。
手数料収入		47,500	
補助金収入		6,156	各種奨学金制度の充実により学生生活を支援しています。
●資産運用収入		117,000	
事業収入		37,857	資格試験講座やキャリア開発講座の開講費用、スクールバスの運行費用等が含まれています。
雑収入		11,961	
その他の収入		253,763	学内の清掃やOAの保守メンテナンス料等が含まれています。
退職給与引当特定資産からの繰入収入		235,957	
貸付金回収収入		17,806	建物、教育研究用機器備品、図書を購入費等です。
前年度繰越資金		3,104,624	
収入の部合計		6,740,994	長期修繕計画に基づき、修繕計画総経費の単年度負担額を計算し、積立てを行っています。
支出の部		本年度予算額	
科 目			
●教育研究経費支出		728,599	ゼミ運営・論文製本費補助金、クラブへの援助褒賞、留学生との交流等の支出が含まれています。
人件費支出		2,026,270	
●教育研究経費支出		728,599	学園祭や新入生歓迎行事等の学友会への援助金です。
消耗品費支出		27,724	
光熱水費支出		72,292	教育研究経費支出以外の経費で、総務や人事、経理など、管理部門の経費や、学生募集経費等です。
旅費交通費支出		38,562	
奨学費支出		68,353	建物及び構築物の当年度減価償却額と同額を積み立て、建物等の建替えや施設等の充実に活用されます。
●学生厚生費支出		21,491	
印刷製本費支出		39,944	「大学将来対策引当特定資産」として、大学の将来の充実・発展のために活用します。
修繕費支出		24,018	
賃借料支出		17,331	施設・設備関係支出
報酬委託手数料支出		249,796	
●学生生活補助金支出		2,860	その他の支出
その他教育研究経費支出		166,228	
●管理経費支出		306,454	退職給与引当特定資産への繰入支出
消耗品費支出		3,615	
光熱水費支出		4,300	建物等減価償却引当特定資産への繰入支出
旅費交通費支出		11,225	
印刷製本費支出		58,679	建物等修繕引当特定資産への繰入支出
修繕費支出		692	
賃借料支出		5,162	貸付金支払支出
報酬委託手数料支出		23,060	
●その他管理経費支出		199,721	予備費
施設・設備関係支出		32,652	
その他の支出		476,376	●次年度繰越資金
退職給与引当特定資産への繰入支出		96,832	
●建物等減価償却引当特定資産への繰入支出		277,470	支出の部合計
建物等修繕引当特定資産への繰入支出		100,000	
貸付金支払支出		2,074	
予備費		50,000	
●次年度繰越資金		3,120,643	
支出の部合計		6,740,994	

※この2009年度大学予算書は、本学が予算管理目的のために設定している「大学の予算」の収支を勘定科目別に表示したものです。

講座終了後に参加者で記念撮影



海外フィールドスタディ(韓国)を実施

経済学部専門科目として開講されている「海外フィールドスタディ」が、2月23日(月)～3月4日(水)までの10日間、本学協定校のひとつである韓国学中央研究院で実施されました。

参加者20名の学生たちの中には、インド、中国、台湾からの留学生も含まれており、大半の学生が初めて韓国を訪れるという学生たちでした。今回準備されたプログラムの内容は、韓国語による授業や韓国文化の体験、また韓国の政治・経済情勢を学ぶことを目的にした企業訪問など、多彩なプログラムで実施されました。

今回のプログラムに参加した学生たちは、全日程終了後、「報道と実感―韓国経済危機機」をテーマに、韓国で体験した授業やプログラムを通して、自身の感じたことをレポートにまとめ、グローバルな視野を養うことができました。

「海外姉妹校訪問プログラム」を実施

3月20日(金)～26日(木)までの1週間、「海外姉妹校訪問プログラム」と題して、13名の学生と法学部教員1名が、韓国ソウルにある本学姉妹校のひとつ、崇実大学校を訪問しました。

今回の訪問プログラムは、今年1月に本学関係者が崇実大学校を訪問し、経済学部で開講されている「海外フィールドスタディ」の法学部関連プログラムとしての実現を打診、協議を行い、パイロット事業として実現したものです。

プログラムの参加者は、主に法学部の学生を中心に韓国語の修得を目的とした学生たちで、ソウルの大法院(最高裁)や憲法裁



ソウルにある大法院(最高裁)にて

判所、国会議事堂、板門店などの訪問を行いました。また、法学部教員の訪問により、崇実大学校法科大学教員との交流も深めることができ、今後、両大学学部間の交流を深める良い機会になりました。

2010年度からは、法学部開講科目として、単位認定もされる予定です。

東大阪市立八戸の里東小学校にて



学は、教員養成大学として有名な大学で、今回来日した研修参加者も全員が教員を目指す学生たちでした。一行は、来日後、関東地方で各地の視察を行った後、本学に到着、関西各地の視察を行いました。1ヶ月間の研修プログラムに参加した学生たちは、八尾市や東大阪市にあ

アメリカ・カンザス州立エンポリア大学「日本研修プログラム」を本学で実施

昨年4月、学術交流協定を締結したカンザス州立エンポリア大学の「日本研修プログラム」が、5月26日～6月26日の1ヶ月間、本学で実施されました。

今回の研修プログラムには、1ヶ月間(3名)のプログラムと3泊4日(8名)の短期プログラムが準備され、計11名の学生が本学を訪れました。



る小学校、中学校、高等学校での授業参観や英語授業体験、茶道体験、八尾市の地元住民宅や在学生宅でのホームステイを通して、日本の文化を直接肌で感じていました。

また、研修プログラム参加者は、本学滞在中、英語の授業にアシスタントとして参加したり、国際部交流室で英会話のボランティア授業を行うなど、日本人学生とのコミュニケーションを積極的に図っていました。

カンザス州立エンポリア大学

1863年にカンザス州エンポリア市に創立された州立エンポリア大学は、長い歴史と伝統を持ち、教育、教養、ビジネス、図書・情報マネジメントの分野で学部から博士課程までを有する総合大学です。

現在、約4400名の学生と世界40ヶ国以上から350名の留学生が在籍しています。また、教員養成学校として創立されたという歴史から、現在でも教職課程が有名で、全米でも非常に高い評価を受けています。



グローバルな人材を目指して、海外インターシップへ出発

石橋 征治さん（経済学部・3年生）



大学システムをフル活用し、留学を勝ち取る

元々英語が好きだったのですが、高校までは文法やリーディングをメインとした勉強ばかり。留学で話せる英語を習得したいと思っていましたが、金銭的な事情から自分には無理だと諦めかけていました。しかし、奨学金を利用できること、一般外国語のみを履修していてもTOEIC®の点数が良ければ選ばれることを発見。このチャンスを活かし、もっと英語を話す環境で自分の能力を高めてみたい、と思い留学を決意しました。そして、勉強した結果TOEIC®で上位の点数を取ることができ、留学生に選ばれました。

自分から行動することで性格も積極的に

留学をするなら、多国籍な人々と友達になりたいと思っていました。そこで、世界各国から人が集まると聞いていたカナダ・トロントを留学先へ選択。はじめは話しかける勇気がなく、引っ込み思案だったのですが徐々に自分から話しに行くように。国ごとのマナーや作法の違いに戸惑いつつも、他国のそういう面を見ることで日本人特有の習慣や作法にも気付かされ、日本の良い面、他国の良い面を同時に見られたと思います。現地ではホームステイをしていました。ホストファミリーとは毎日夕食後にディスカッションをして交流を深め、週末にはオンタリオ湖へ小旅行するなど、家族同然の歓迎をしてもらいました。そして、時には友達と連れ立ってニューヨークやナイアガラ滝の滝見学ツアーのほか、ボランティアなどにも参加。国籍の違う人々と過ごした時間は、言葉に表せないほど貴重な体験になりました。引っ込み思案だった僕の性格も帰る頃には積極的に、自ら友達を作れるまでに成長しました。



ナイアガラ滝を背景に

留学で得た英語力をさらにバージョンアップ!

海外で様々な体験をし、友達とのコミュニケーションは不自由なく英語力は上がりました。目に見えて成果がわかったのはTOEIC®です。留学前は450点だったのが帰国後のテストで770点と高得点を取れました。これには自分でもびっくりしましたね。そして、会話だけではなく仕事として使える英語を身に付けたいと思うようになり、今年の9月からアメリカ・サンディエゴで海外インターンシップ・プログラムに参加することになっています。ビジネス英語を習得し、英語を交流するためだけのツールではなく、もっと広い分野で使えるようになりたいと思っています。さらに、インターンシップ先の企業は本学卒業生が設立した日系企業なので、どのように海外で起業するに至ったか、起業する際のノウハウなども吸収できればと思っています。将来の目標は海外で英語力を活かした仕事に就くこと。留学・インターンシップを通して英語力だけでなく、人間力も高めていきたいですね。



海外で得たものは何にも変えがたい大切な「宝物」

英語力の大幅UPや世界各国の友達作りなど、留学で得たものは数え切れないほどあります。特に友達が世界各国にできたことで様々な意見が聞け、グローバルな考えを持てるようになりました。海外での生活ができたことで、日本国内にいただけでは考えられないほど、自分の視野が広がりました。今までは自分の意見を人に伝えるのが苦手だったのですが、帰国後は自ら考えを発言するように。この積極性は社会に出た上で、必ず役に立つと思います。留学は世界が肌で感じられる良い機会です。経験を大切に、その先へ広げていくようにこれからも頑張っていきます。皆さんもぜひ挑戦して、自分の成長にびっくりしてください。きっと、新しい自分を発見できるはずです。

2009年度海外派遣プログラム

LSP協定留学プログラム (8～9月出発/4～5ヶ月)

カナダ／トロント大学…14名
オーストラリア／グリフィス大学…3名
アメリカ／エンポリア大学…1名
中国／復旦大学…2名
韓国／崇実大学校…4名

ESP（交換留学/9月出発/6ヶ月～1年）

中国／北京大学…1名・復旦大学…1名
韓国／崇実大学校…1名

海外語学研修（8～9月出発/1ヶ月）

ロシア／極東国立総合大学…1名
韓国／梨花女子大学校…2名
ドイツ／D.I.D. …1名

姉妹校国際学生交流セミナー (8月16日～2週間)

大阪、ソウル、上海にて開催

●参加大学
日本／大阪経済法科大学
中国／復旦大学
韓国／崇実大学校
ロシア／極東国立総合大学

海外インターンシップ（9月出発/2週間）

アメリカ／サンディエゴ
(YS PROPERTY INVESTMENTS, inc.) …2名
韓国／ソウル
(崇実大学校対外協力処) …1名

海外フィールドスタディ（9月出発/10日間）

中国／上海

TOPICS

世界遺産の「姫路城」を訪問



6月20日（土）、留学生と一般学生との交流を深めることを目的に、異文化交流行事が開催され、姫路城を訪れました。今回の異文化交流行事には、日本研修プログラムで来日しているアメリカのエンポリア大学の学生たちも参加し、世界遺産に登録された姫路城を見て、感嘆している様子でした。他の留学生も日頃触れることのできない日本の伝統文化に、興味を示していました。

スポーツ交流を通じた互いの親睦を深める

5月16日（土）、約60名の留学生と一般学生参加の下、毎年

恒例となったスポーツ交流会が開催されました。当日は、バスケットボールやバドミントン、ドッジボールなどが行われ、参加した学生たちは互いの親睦を深めました。



新入留学生歓迎行事を開催

4月11日（土）、12日（日）の

2日間、今年度新入留学生50名と新規交換留学生10名の歓迎行事として、本学阪南キャンパスで合宿が行われました。初日は、新入生への学生生活オリエンテーションと留学生の卒業生から進路についてのアドバイスの後は場所を広大なキャンパスに移し、散策やグラウンドでのスポーツ交流が行われました。2日目は、参加者全員で隣接するせんなん里海公園のビーチまで移動し、砂浜でビーチバレーを楽しんでいました。



文部科学省の平成21年度

「大学教育・学生支援推進事業」

学生支援推進プログラムに採択される。

本年度「大学教育・学生支援推進事業」（テーマB）では、「各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供することにも、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の

質保証の強化に資することを目的にした取組が募集され、本学が申請した取組「不況下における学生の個別ニーズに対応した就職支援体制の構築」が学生支援推進プログラム（就職支援の強化など総合的な学生支援）に採択されました。本学は、これまでも「高度専門職業人」

及び「幅広い職業人」の育成を目標とした学士課程教育を目指してきました。今回採択された取組は、急激な景気悪化による困難な状況と学生の個別ニーズに効果的に対応した就職支援を行うため、就職情報システムをより一層充実させ、キャリア教育及び就職活動に関する教育力を高めることを目的としたものです。今回の採択により、学生が希望する進路の実現、高い就職率の維持・向上をより一層図っていきたいと考えています。

【2009年度就職内定先】

6月10日現在

運輸・建設・不動産

西日本旅客鉄道(株)、近畿日本鉄道(株)、
(株)サカイ引越センター、東建コーポレーション(株)、
(株)ジェイ・エス・ビー、近鉄不動産(株)、
積和不動産関西(株)、東急リバブル(株)

銀行・証券

(株)長野銀行、京都中央信用金庫、近畿労働金庫、
摂津水都信用金庫、浜松信用金庫、郵便局(株)、
野村證券(株)、三菱UFJ証券(株)、日本アジア証券(株)、
SMBCフレンド証券(株)、岡三証券(株)、(株)クレディセゾン、
日本生命保険(株)、(株)かんぽ生命保険

製造・卸

キッセイ薬品工業(株)、中外製薬(株)、久光製薬(株)、
(株)ロマンズ小杉、ザ・バック(株)

流通・小売

ミヤコ(株)、(株)エービーシー・マート、
(株)ライフコーポレーション、(株)平和堂、(株)ジャパン、
(株)ドン・キホーテ、イズミヤ(株)、(株)オークワ、
(株)AOKIホールディングス、(株)セブン-イレブン・ジャパン、
(株)ファミリーマート、(株)ヤマダ電機、トステムビバ(株)、
(株)スギ薬局、(株)キリン堂、(株)サンドラッグ、(株)万代、
(株)フレンドリー、(株)松屋フーズ、
(株)ウエシマコーヒーフーズ、(株)吉野家ホールディングス、
(株)ライフフーズ、カップ・クリエイト(株)、
(株)くらコーポレーション、(株)ゼンショー、ワタミ(株)、
(株)関西スーパーマーケット、アークランドサカモト(株)

情報・サービス・その他

(株)TKC、(株)VSN、郵便事業(株)、(株)ラウンドワン、
(株)マルハン、太陽建機レンタル(株)、総合警備保障(株)

公務員

公務員一次試験合格…33名

2009年 就職戦線

発想を転換し活路を拓け！

厳しい就職戦線に立ち向かう

学生を全面的にサポート

昨年から続く景気の悪化状況について、政府は7月の月例経済報告において、「厳しい状況」にあり、輸出、生産、個人消費では「持ち直しの動きがみられる」ものの「企業収益が極めて大幅に減少」しているため、先行きを「当面、雇用情勢が悪化するなかで厳しい状況が続く」と判断しています。



動していくことです。巨大組織の中で歯車と化すより、能力を発揮し成長できる環境の方が働き甲斐があり、地元を離れた方が見聞を広げることが出来ます。例えば、売り手市場の頃にはあまり注目されなかった中小企業の中から、オンラインワン企業や超優良企業を見極めたり、関西圏の企業に限定せず、東京圏や地方にも目を向けてみてはどうでしょうか。それが、結果として企業へのエントリー件数の増加にもつながり、内定を勝ち取るための近道になるはずです。

就職課では、目標達成に向け全力で立ち向かう学生を全面的に支援するとともに、就職・求人の情報発信だけではなく、学生一人ひとりの希望進路の実現を目指し、大学全体の取り組みとして、さらなる就職支援の充実を図っていきます。

「主な就職支援内容」

学生の個別状況に合わせたサポート

様々なキャリアを持った相談員を就職課と学習支援センターに配置し、就職活動上の相談や様々な質問に応じています。また、4年生全員の就職活動の進捗状況等を把握し、必要に応じた情報提供やアドバイスをを行っています。履歴書の添削・模擬面接等も実施しています。

学生と企業の出会いの場を創出

近畿圏等15000社の調査に基づく、最新の求人情報の提供を行っています。また、学生ポータルサイト（ナイスポータル）で、Uターン就職希望者に向けた地方の求人情報を個別配信しています。商工会議所、中小企業家同友会等との連携に基づくセミナー、採用実績を持つ企業が参加する個別会社説明会を随時開催しています。

学生の経済的負担を軽減

就職活動上、必要な証明書の無料発行（10通以内）及び東京麻布台セミナーハウス宿泊料の免除措置を講じています。また、教育後援会の補助により、就職模擬試験の受講料が減額されます。

「新学生ホール棟(仮称)」建設

レストラン、カフェ・ラウンジ、プレミアムホールを備え、キャンパスライフをサポート!



(完成予想CG)

スクールバス発着場から、教室棟が建ち並ぶ教育エリアへ向かうスロープを下りると、すぐ目の前の5号館北側に、2011年新春、「新学生ホール棟(仮称)」が誕生します。

ふれあい池を中心とした自然エリアと教育エリアのちょうど接点に建設される「新学生ホール棟」は、豊かな緑に映える白の外壁をもち、隣接する教育棟群とも調和を図りながら、黒の三角屋根が特徴的な外観です。東西両サイドにある2層吹き抜け・ガラス張りのエントランスを始め、開放的で透明感のある造りで、「やわらかさ」や「やさしさ」を感じさせるデザインになっています。

地上3階建てで、延床面積1,682.20㎡。高さは約18mあり、「新学生ホール棟」の三角屋根は4階建ての1号館屋上より高くなります。

1階中央部分が、高天井の開放的なレストラン。2階は、「読書」「休憩」「パソコン」「談話」に使える

ラウンジ。遊歩道からも直接2階のテラスに、そしてラウンジに行けます。西に大阪平野を眺望し、ふれあい池も臨める屋外テラスに囲まれるように3階にできるプレミアムホールは、講演会や研修会、コンサート、映画会等に使用できます。

本学では、今後もキャンパス環境の整備・充実をさらに進め、みなさんのキャンパスライフをサポートしていきます。

工事期間中は、安全対策に万全を期しますが、通行には充分ご留意ください。

[新学生ホール棟(仮称)の建設計画]

構造規模：鉄骨造・地上3階

建築面積：768.71㎡

延床面積：1682.20㎡

1階	731.78㎡
2階	511.68㎡
3階	438.74㎡